

平成30年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 平成30年7月30日(月)9時30分～11時05分

<開催場所> 宇治市役所3階 302会議室

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
安藤 和彦	ユマニテク短期大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
西村 徹也	連合京都南山城地域協議会 事務局長
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事
寺川 徹	市民委員
山口 万紀	市民委員

計8名

<事務局等>

木村 幸人	宇治市 副市長
貝 康規	政策経営部 部長
荻野 浩造	政策経営部 副部長
中嶋 久子	政策経営部行政経営課 課長
本間 雅人	政策経営部行政経営課 副課長
亀井 明美	政策経営部行政経営課経営推進係 係長

計6名

<会議次第>

1. はじめに
2. 議事
・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について
3. 閉会

<会議内容>

1. はじめに

事務局)失礼いたします。それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。本日は、皆様方には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

《欠席委員の報告》

次に、配付資料の確認をさせていただきます。事前にご送付させていただいておりました資料も含めまして、次第、席次表、平成29年度事業の総合戦略にかかる事業報告書はすべておそろいでしょうか。不足するものがございましたら、後ほどでも結構ですので、事務局にお申し出ください。

それでは、会議の開催にあたりまして、副市長よりご挨拶を申し上げます。

《副市長 挨拶》

それでは、これより委員長に進行をお願いいたしますので、どうぞよろしく申し上げます。

2. 議事

・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について

委員長)それでは、私の方から会議次第により進行させていただきます。

それでは、これより宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。お手元にあります会議次第2、議事の「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略にかかる事業評価報告（案）等について」を事務局より説明をいただきたいと思っております。

資料に基づき事務局から説明

委員長) ありがとうございます。

これから、質疑に入りますが、その前に2点ご連絡させていただきます。

まず、本会議におきましては、傍聴の申請があり、これを許可しましたのでご連絡いたします。また、会議録を作成いたしますが、情報公開の対象となりますので、予めご承知おきください。

それでは、事務局の説明に対し、ご意見やご質問のある方は、挙手をお願いいたします。

説明の冒頭にもありましたように、交付金に関しては外部有識者による効果検証が求められており、当委員会は外部有識者会議であり効果検証をする場となっておりますので、効果があがっているかどうか、また様々な部分についてご意見やご質問をいただければと思っております。

委員) 非常に膨大な資料なので表面的な話になってしまうかもしれませんが、経年変化が分かるようにという昨年の意見を踏まえて報告の形を変えていただき非常に見やすくなったと考えております。これを見ると、観光振興に関する項目に関してはKPIが非常に良い形で推移しているようにも見えますし、また、非常に多くの事業をされているのだなと思いました。一方で、人口減少対策で、市民側の愛着度や定住意向は両輪がうまくいかないといけないと思うのですが、資料29ページ「市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生」の数値目標「市民の宇治への愛着度」及び「市民の定住意向」は、毎年とはいいいませんが2年に一度はアンケートを実施し、数値をとらなければならないと思います。また、会議時間に限りがある中でのご説明でしたので、説明を割愛されている部分がありました。市民参画や市民がどう思っているかという部分の割愛が多かったと思います。

事務局) ありがとうございます。定住意向については、私どももKPIの指標は時点ごとに数値を押えたうえで目標値と比較し効果検証していかなければならないと考えており、市民定住意向につきましても今年度は5年ぶりの実施となりましたが、今回、アンケート調査を実施し、定点観測していかなければと思っております。こちらについては経年で押えていかなければならないと考えており、その辺りはご意見等も踏まえまして今後どういう形で展開できるか整理をさせていただきたいと考えております。

また、私の説明につきまして、あえて市民参画の内容を省略したというわけではなく、KPIの目標値の変更等もございました内容に力点を置いて説明をさせていただきました。市民の皆様への参画というのは大変重要なキーワードだと思っておりますし、ここに記載ある事業については全て重要な施策であると認識しております。

委員長) 意識意向のアンケート調査については、5年に1回くらいということで、もう少し頻度をあげればということもあるかと思いますが、一方で費用と答える側の負担の問題がありますのであまり頻繁に行うわけにもいかず、難しいところではあります。今年度がアンケート実施の年度、25年度との比較しかできないということになり、5年間のKPIの数値としてどのくらい意味があるかは疑問はなきにしもあらずですが、なかなか愛着とか定住意向を何か数値で表すといわれると意識調査くらいしかないというのが問題です。最終的には一番大きいのが人口動態になりますが、他の要素も入りますのでなかなか難しいですね。

委員) 私は普段、子育てに関する仕事をしているので、71ページ「若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり」について意見させていただきますが、希望をかなえる環境づくりを謳っているのも、まずは市民の希望を聞かないといけないのではないかと考えます。子育ての現場にいるので、様々な方のご意見を聴く機会がございますが、結婚イコール子どもを持つことではない、一人目は産んだけれども二人目が経済的事情やサポートがないといった諸事情によって難しい、サポートはあるが共働きであるなど二人目を躊躇されているといった現状がございます。アンケートをするには色々費用もかかるということですが、宇治市には拠点支援事業を行っている場もたくさんありますので、そういったところを活用すればもう少し子育てに関するアンケートをとれるのではないかと思います。子どもを産み、育てやすい環境だと感じる人の割合を図るアンケートが毎年のもではないので、今ある施設を使えばもう少し定期的にアンケートがとれるのではないかと思います。また、宇治市は子育てしやすいまちであるということ宇治市外にどう発信すればいいのかなと思いました。あと、本市独自のデザインによる婚姻届及び出生届について、こんなかわいい出生届等があるならどんどん情報を発信していただければいいのではないのかなと思います。

事務局) まずは子どもの施策につきまして、子ども子育ての計画を今年度からスタートをさせていただいております。スタートするにあたりましては、保護者の皆様から子育て環境のアンケートを実施し、現計画を策定させていただいております。しかしながら、若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくりといった点では総合的にみていく必要があると考えており京都府の実態調査にもありましたが、様々なアンテナをはりどういったアンケートがあるのか含めて次の展開にどうかしていくのか改めて事務局として考えていかなければならないと考えております。ご指摘の出生届等は作成しましたものの、まだまだ認知不足であると思っておりますので、委員からお声をいただいているということに関係部署に伝えていきたいと考えております。

委員)子育ての関連で話をさせてもらいますが、先日台風被害による水害がございました。

今回は朝から京都府内、教育委員会から小学校は休校だという指令が出ました。これが下校時になった場合、例えば育成学級ではどう対応されるのでしょうか。育成学級が3階建て、4階建て校舎で実施されているなら問題ないと思います。また、保護者が家にいれば対応は可能だと思いますが、その辺りの配慮も必要ではないかと考えます。水害があった時はトータルで見る必要があると思います。

事務局)災害の対応については、子育てに特化した部分でどのような動きをしていたのか把握しておらず、その部分については改めて確認をさせていただきたいと考えております。また、ご指摘のとおり育成学級等の施設につきましては、安全性やそこへ行くまでの安全を含めての考えがあるのではないかと考えております。

委員)保幼小連携の部分については、記載がありますが、育成学級との連携についての記載が抜けています。保育所と育成学級との連携というのも必要でないかと考えます。今後ますます育成学級の待機児童という問題も出てくると思いますので、配慮が必要ではないかと思えます。

事務局)育成学級の待機等については、育成の枠を一定確保しておりますが、小学校によっては多いところがありばらつきがあります。当然、保育のニーズがあったところについては、次に育成につながるという関連性があるのではないかと考えておりますので、動向については当然把握していかなければならないと考えております。保育と育成の連携については、担当課へ確認させていただきながらどのようなことができるのか考えていきたいと考えています。

委員)宇治市では幸いこれまで大きな災害というのがありませんでしたが、今回の大阪府北部地震でもそうですが、「まさか」というところで大きな被害が出ています。行政が全く機能していないということですので、本当の意味での住みよいまちというのは、色んな意味での安心安全だと思います。例えば、今年度から防災リーダーになりましたが、まだ危機管理室からは連絡がありません。そういった連絡システムの構築等が必要ではないかと思いました。いざという時に、宇治市はすごいと思ってもらえるようにすることが必要であると思います。あと、大阪府北部地震では宇治市でも強い揺れを感じましたが、そういったときにFMうじが機能しなければならないと考えます。以前からディレクターには言っておりますが、今回の地震発生時、恋愛の曲等が流れていましたので、そういった緊急事態には曲を切るべきだと思います。

事務局)市民の方の防災意識については、60ページの「地域コミュニティの活性化」に記載がございますが、昨年度より自主防災リーダー養成講習を開催させていただき、

取組を進めさせていただいている状況であります。特に地域の皆様が平素から地域を思って活動いただいているということが大変重要であると考えていますので、人材育成、支援の取組としまして今回ここにも掲載させていただいているところであります。ラジオについては、そういったことがあったという認識を私の方でもしておりませんでした。ご意見があったということについては改めて広報を担当する部門に対し知らせていきたいと考えております。

委員長) 58ページの「公共施設アセットマネジメントの導入」についてのKPIである公共施設等総合管理計画の策定について29年度で策定済みですが、この場合はKPIについては変わらないということによろしかったですか。達成したということで、来年もこのままで変更なしでよろしかったですか。

事務局) 事務局では、具体的な施策の名称が公共施設アセットマネジメントの導入ということで、まずは施策の導入というところにスタンスを立てて施策を定めさせていただいております。どういうKPIが定められるのかその辺りは検討が必要となっております。

委員長) KPIを変えなければならないということではないと思いますが、アセットマネジメントの計画を策定するのが目的ではなく、その計画がいかにかそれに基いてマネジメントがしっかりできているかどうか重要になるので、KPIにこだわらず実際にマネジメントがうまく進められているかどうかを今年度、来年度の評価の中に入れていただければと思います。

事務局) ご指摘いただいたとおり、昨年度総合計画を策定いたしました。今年度以降から個別の施設の管理計画の策定について順次実施を予定しているところでございます。ここでは、個別計画について進捗管理をすることを考えております。

委員長) 個別計画の段階に進みますと、俗にいう総論賛成、各論反対になって色々反対が出て上手くいかないことがあります。そういう点では、個別の進捗管理はひとつの目安になるかもしれません。

委員) KPIはあくまでひとつの指数であるのに、たくさん増えてきているため、目標を達成するベストプラクティスが何になるのか、分かりづらくなっています。また、何をもって成功とみなすのかという点でKPIの目標値からのギャップの修正も必要です。58ページの公共施設等総合管理計画の策定のKPIはKGIという指数を使ってもいいのではないかと思います。

事務局) KPI については数値目標として使っておりますが、本来、人口減少に歯止めをかける、人口流出を抑制するということが本来の目的となってきます。ここの数値目標というのは、数値でお示しをしないと現状の到達点が分からない状況であります。目標が達成できたから、定住促進につながったかどうかという部分においてはきちんと注視しなければなりませんし、決して数値目標イコール行政としての目標達成ではなく、なぜそれが達成できたのか検証も行いながら施策の展開を図っていかなければならないと思います。

委員) 我々働く者の立場からすると観光やサービス業の非正規の割合が高いと思います。中小企業に対する支援というのも、もう少しお願いしたいと思います。また、今異常気象の中でエアコンの設置について問題となっておりますが、宇治市の小学校や中学校のエアコンの設置状況についてはどういう状況でしょうか。さらに、昔は公衆トイレが汚れておりましたが、今は京都市がトイレ改修をしていて大変きれいな状況です。観光で来られるお客様は、そういった部分をよく見ておられます。トイレについてはいかがでしょうか。

事務局) 教育施策の充実については、ソフト事業もハード事業も記載させていただいております。基本については宇治学といった部分で書かせていただいております。エアコンについては、宇治市においては設置を完了させていただいております。トイレについては、費用もかかるので一斉には難しいですが、順番に整備させていただいております。

委員) 各個人の家トイレはほとんど洋式であります。和式トイレは、お子さんでも怖いと言われることがありますので、市役所もそうですが、最近は多目的トイレがある中、少しずつでもいいので改修に着手していただければと考えております。トイレがきれいというのは観光面でもプラスになると思います。

事務局) 79ページの子育て支援環境整備事業の中に記載がございますが、庁舎やその他の公共施設について乳幼児チェアやおむつの交換台の整備など、宇治市で子育てをしていただきやすい環境というのを整備させていただいております。また、観光のトイレについてご意見いただいておりますが、7ページの観光関連施設整備事業で今回 JR 宇治駅前、天ヶ瀬吊り橋前観光トイレの修繕や宇治橋西詰水飲み場の修繕等観光施設の修繕を行ったところでございます。

委員) 54ページ「交通環境等充実事業」で「JR 宇治駅乗客数」や「のりあい交通事業実施地区数」を KPI に設定していますが、少し中宇治を偏重しすぎではないでしょうか

か。近鉄沿線や JR 宇治駅は観光の要素が入っているので、もし5年の中のどこかで KPI の設定を変更できるなら他の沿線も入れてはどうかと思います。

また、26ページの「宇治の魅力の深化事業」の KPI について、「重要文化的景観地区選定面積」について指標として挙げていますが、総合計画中期計画でもずっとこの数字を見ていて毎回目標にしたところで、達成できておりません。目標値が平成31年度で520ヘクタールとしていますが、行政手続き上、今からやっても間に合わない数値であります。それを行政でも分かっておられる中で、この数値を設定することについて、他の KPI に乗り換えた方がいいのではないかと考えます。

事務局) 54ページの公共交通の JR 宇治駅偏重についての部分でございますが、公共交通の充実というのは定住いただくうえで重要なファクターとなってきます。人と物等の交流に力点を置いているところで偏重かもしれませんが、交流人口を拡充していくためのひとつの指標として代表的に JR 宇治駅をあげさせていただいております。目標の指標値自体を上方修正などすることは可能であるとは思いますが、5年間の総合戦略策定後の3年間が経過し、ご議論いただいている指標値自体を変えることは、この時点でむずかしいと考えております。ご指摘のとおり JR 宇治駅の乗客数だけが定住人口の拡充につながるものでもなく、また、目標値自体が達成しているからといって施策が達成できたという訳ではなく、達成できた背景についてもしっかり分析しないといけないと思いますし、他の目標の値がどうなのかについても注視していく必要があります。

26ページの「重要文化的景観地区選定面積」についての指標については、総合計画策定時でもご議論いただいた部分ではありますが、一定この指標を頂いた中で急遽変えるのは難しい点、また、総合計画の中でも同じように定めている中でこれを変えるのは難しいと考えています。ただ、一方で、この指標の目標を達成できるのかという面ではなかなか厳しいと感じている部分です。今ご指摘いただいている部分に関しましては、次の施策の中で何ができるのか、目標値520ヘクタールに対して、目標達成するにはどうすればよいのか関係部署とも調整しながら進めていく必要があると考えています。

委員長) KPI そのものを変えてしまうというのは、制度の趣旨からしてもあまり想定されていないことだと思います。上方修正については、あり得るかと思いますが、重要文化的景観地区選定面積のように努力したからといってその分来年増えるとかそういった性格のものではありません。なかなかこの数値だけみて効果があったのか、なかったのか、あるいは十分な活動をしたのか、どうなのかということを KPI だけでは把握できないものがある意味選んでしまったところがありますので、数値による評価というのはある種限界であくまでもある特定の部分の結果だけしか見えないところなので、こういった委員会等で検証して最終目標に向かって必要な努力や活

動が十分展開されているかのチェックが重要になってくると思います。

他には何かございますでしょうか。

委員) 資料1ページ目、「交流人口」の31年度の数値目標を750万人としていますが、750万人を目標にするのであれば、渋滞などの駐車場問題や宿泊施設や昼食施設が足りず対応しきれません。これらの課題があるため、交流人口を増やすより、消費額をあげていくということを目標数値にする必要があるのではないかと思います。また、インバウンドである海外のお客様の消費額が高くなっており、外国人に対するトイレや観光サインの問題、道案内の多言語化も今後の課題の中で大きなウエイトを占めます。国内の観光客でしたらピンポイントの施策でいいと思いますが、海外客となると少なくとも5泊、6泊される中で関西の色々な場所を周られますので、観光都市の京都市や大阪と観光面での連携を強化していく必要があります。また、インフラ整備のバランスの中で目標数値を決めていけばいいと思います。あと、オリンピックやパラリンピックに向けた施策について様々な場面で話が出ますが、翌年度以降はどうするのかという部分が欠けています。今後、私の感覚ではオリンピック以降も海外の人が増え続けるのではないかと思います。そういった点も考慮して長期的に消費額含め交流人口の質を上げる課題に組み込んでいただきたいと思っています。

事務局) インバウンドにしてもバランスをみてハード面や観光誘客のための各種施策を見ていかなければならないことを改めて認識したところでございます。より具体的に観光に特化した施策については、観光振興計画の中の後期アクションプランを平成30年度からスタートさせていただいておりますので、そちらとの意識・連携もしながら確固たる宇治ブランドの確立の交流人口、海外の方を含めた常住人口を増やすことを目指しております。そういった取組から宇治市の満足度もあがっていくと考えておりますので、担当部課と連携をしながら指標の管理や事業の進捗管理はしていきたいと考えております。

委員) 観光振興計画の中には750万人という数字はありませんので、宇治市の中で750万人なら750万人で観光振興計画を練り直すべきですし、観光振興計画とのバランスを見ていただければと思っております。

委員長) 地方創生の取組の中でちょっとはりきりすぎた数字かもしれないですね。確かに、委員ご指摘のとおり観光客は増えればいいというものでもないです。特にキャパシティをオーバーしてしまうと満足度が低下してしまいます。結果、リピーターの低下につながったりもしますので、仮に750万人を本気でやるならそれに見合った対応をしっかりとっておかなければならないというのは委員ご指摘のとおりだと思います。

他に何かないでしょうか。よろしいですか。非常に多岐に渡っての評価でございましたので、なかなか詳細なチェックというのが出来ませんでした。報告書については、ご指摘いただいた今後の事業の進め方に関する留意点や指標や効果のあり方を参考にして改善していただくという部分はあるものの、29年度の報告についてはこれでご了承いただけますでしょうか。

委員が了承

委員長)ありがとうございます。では、委員会としては、報告書についてこの内容を了承したものといたします。

3. 閉会

委員長)では、本日予定をしておりました議事は以上でございますので、これ以降の進行については事務局にお返しさせていただきます。

事務局)本日はお忙しい中、長時間にわたり、真剣なご議論をいただき、ありがとうございました。また、貴重なご意見をありがとうございました。皆様からいただきましたご意見につきましては、市議会の総務常任委員会へ報告いたします際に併せて報告させていただきます。本委員会、総務常任委員会でもいただきました意見により修正を加え委員の皆様には文書でご報告させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

この後、秋ごろとはなりますが宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時に委員を務めていただいております牧瀬稔様に総合戦略に関するアドバイスをいただけてまいりたいと考えております。

今後も地方創生の実現・推進に向けまして、委員の皆様方のご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。本日はありがとうございました。